

サポートブックの使い方 ガイド

はじめに

発達障がいのある方への支援は、乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応した一貫した支援が求められます。しかし、現状では、小学校入学・高校進学などライフステージの移行とともに所属する機関や支援機関等が変わるたびに、これまで受けてきた支援の内容や本人の特徴を一から説明しなくてはならず、また説明した内容が十分に伝わらず、支援に反映されていないことが多々ある状況です。

大阪市では、ライフステージが変わっても、切れ目なく本人の特性や支援の仕方などを、新しく所属する機関や支援機関に適切に伝えることができるようになることを目指して、「サポートブック」を作成しました。

この冊子は「サポートブック」の使い方について、基本的な内容をまとめたものです。また、ライフステージごとに作成する「サポートブック」の具体的な記載例を載せた記入例も別途作成しておりますので、本冊子とともにご参照ください。

サポートブックを活用することで、「切れ目のない支援」の実現に少しでもお役に立てることを心より願っております。

支援者、支援機関の皆様へ

このサポートブックは、ご本人が受けてきた各種支援の経過を記録することで、支援者や支援機関が変わっても、切れ目なく適切な支援を受けることができるようになることを目的としています。そのため、家族や本人が作成することが原則ですが、内容によっては支援者や支援機関の助言が必要となる場合があります。そのときは、ぜひ、書く内容・書き方についてご助言くださいますようお願いいたします。（書き方などに決まりはありません。各機関にとってやりやすい方法でご助言いただけると有難いです。）

サポートブックの作り方・使い方

① サポートブックとは

- ・ サポートブックは、ご本人に関するさまざまな情報（特徴・接し方・支援方法など）を保護者またはご本人がまとめた冊子です。
- ・ サポートブックを記入することにより、ご本人に関するさまざまな情報（特徴・接し方・支援方法など）を支援者や支援機関に伝えやすくなるだけでなく、ご本人の特性をより理解することができ、新しい対応や工夫を考えるきっかけにもなります。

② サポートブックの作り方

- ・ 日々の生活の中で工夫されているかわり方や、ご本人が困ること（不安になる等）が多い状況とそんな場合におこなっている工夫・対応方法などを記入します。
- ・ また、これまでの対応の中でうまくいったこと、引き続き継続して配慮してほしいことについても記入します。
- ・ 可能であれば、これまでにかかわってこられた支援者（保育園・小・中学校の先生、医療機関の先生など）の方に支援方法（かわり方や対応の工夫など）を記入してもらってください。

③ サポートブックの使い方

- ・ ご本人が就職するまでには小・中・高等学校進学などさまざまなライフステージが待っています。次のライフステージへ進むときに、ご本人に関する情報（特徴・接し方・対応の工夫など）を新しい支援者や支援機関に引き継いでいくことは、ご本人が新しい環境で安心して過ごすために大変役に立つことです。
- ・ サポートブックは、あくまでも、先生や支援者がご本人への新しい支援を考えるときに参考にもらうためのものです。そのため、新しい環境では、これまでの支援を必ずしもすべて引き継げるとは限りません。また、これまでにはうまくいった支援方法が新しい環境や人の前でもうまくいくとも限りません。しかし、これまでの支援の情報を伝えておくことで、先生や支援者が新しい環境の中で実現可能なことを工夫したり、新しい環境に合わせて変更するための手助けになります。

各ライフステージでの支援の状況とサポートブックの使い方

～小学校での支援の状況～

保育園・幼稚園のときは自由度の高い内容の活動が中心となりますが、小学校になると「時間の使い方」が規則正しく進んでいくようになります。また、活動の中心が「遊び」から「勉強」へと変わり、基礎的な知識や思考力・判断力を育て、主体的に学習に取り組む態度を身につけていきます。さらに、小学校は、初めて集団で学習をする場となり、その経験によって本人が大きく成長する機会であると同時に“初めて”をたくさん経験する場でもあるため、保護者はもちろんご本人も新しい環境に戸惑うことが多いと思います。

ご本人の特徴や家庭での支援方法などの情報を、担任の先生などに伝えておくことは、スムーズに小学校生活をスタートさせることにつながります。

○サポートブックを使って話し合うのは…

いつ？：入園・入学・通所 前と直後（担任の先生が決まってから）

誰と？：保育所・園、療育機関、小学校の学級担任・コーディネータ等の先生方



～中学校での支援の状況～

小・中学校は同じ義務教育ですが、勉強面では、小学校は一人の学級担任がほぼ全部の教科を担当しているのに対し、中学校は教科ごとに担当教師が変わり、定期考査で教科ごとに試験するなどシステムが大きく変わります。生活面でも、中学校からは部活動が始まり、これまでと違い「上下の人間関係」が生まれるなど、小学校の頃に比べてコミュニケーションも複雑になっていきます。

また、思春期を迎え、心身ともに大きく変化する時期でもあり、変化に敏感な発達障がいのある子どもたちは不安感が特に強まる傾向にあります。

これまでの生活で培ったご本人の特徴や家庭での対応の方法を伝えることで、中学校でも継続して配慮していただくことができ、ご本人の安心にもつながります。

○サポートブックを使って話し合うのは…

いつ？：入学 前と直後（担任の先生が決まってから）

誰と？：担任・学年主任・特別支援教育コーディネータの先生方



～高校(高等学校)での支援の状況～

高校は、中学校とは異なり義務教育ではないため、通うのは本人の自由意思であり、成績不良や出席日数が足りないと留年することもあります。また、高校には、全日制・定時制・通信制などがあり、さらに一般的な教科を中心とする普通科、専門的な教科を中心とする専門学校など、教育の内容も選択する高校によって異なってきます。

さらに、中学校に比べて集団生活も多様化し、より高いコミュニケーション能力が求められるようになります。また、本人に自立心の芽生えもあり、大人の言うことをきかなくなる時期にもなりますので、本人の自主性を大切にしながらも、大切な選択をするときは、周囲の大人が支援することは不可欠です。

本人の意思を尊重しながらも、周囲の大人が選択肢や判断基準を伝え、最終的な判断を本人がしやすいように配慮していくことが求められます。

○サポートブックを使って話し合うのは…

いつ? : 入学 前と直後(担任の先生が決まってから)

誰と? : 学級担任・学年主任・特別支援教育コーディネーターの先生方

～高校卒業後の支援の状況～

高校を卒業後、大学・専門学校への進学などそれまでの学校とは状況が大きく変わり、日常生活面・学業面で小学校～高等学校よりも自由度がかなり高くなり、それにともなって自分で計画し主体的に動くことが必要となります。また、対人面でもこれまでと比べると、同年代の人たちを中心に幅広い年齢や考え方をを持った人たちと出会い、かかわる機会が多くなります。

さらに、これまでのようにクラスや担任がしっかりと決まっていることは少ないため、支援が必要な場合も職員や関係者が気付いて声をかけることは難しくなり、ご本人や家族が自ら申し出る必要があります。

○サポートブックを使って話し合うのは…

いつ? : 入学前がおすすめです!

誰と? : 学生や諸手続きや相談にのってくれる窓口(学生支援室等)

～進学先によって、学生支援室、カウンセリングルーム、保健管理センターなど名称はいろいろです。

～大学等卒業後の支援の状況～

大学等を卒業後、必ずしもすぐに就職するわけではなく、就職はできても職場が求める働きができずに離職に至る場合、公共職業安定所（ハローワーク）・障がい者職業センター・職業訓練校・福祉施設（就労移行支援事業所）などを利用する場合があります。

また、就職をしても仕事をすることは、自らの役割を果たし、その対価としてお金をもらうものであり、これまでの学校生活以上に責任が求められます。本人が大きく成長できる場であると同時に、さまざまな年齢層や価値観をもった人たちと交流ができる場でもあり、本人の人生にとってとても有意義な場であるとも言えます。

そこで本人が持てる力を職場において十分に発揮して長く働き続けるためにも、これまで同様にご本人の特徴や家庭での対応方法などの情報が欠かせないものになり、これらの情報が、職場や支援機関と保護者との双方向のコミュニケーションツールになります。

○サポートブックを使って話し合うのは…

いつ？：就職した時やサービス利用開始時

誰と？：人事担当者、公共職業安定所、障がい者職業センター、訓練校・福祉施設職員など



大阪市発達障がい者支援センター

おおさかしりつしんしんしょう しゃ はったつしょう しゃしえんしつ
大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター発達障がい者支援室